別添 4-4

平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合 研究事業）

分担研究報告書

ICU で使用可能な人工赤血球および ME 技術の開発の関する研究

分担課題： 1. 赤血球溶血因子に対する Hb 小胞体の耐性
2. 活性酸素と脂質二層膜成分の反応性

分担研究者　宗 慶太郎　早稲田大学 理工学研究所　准教授
土田 英俊　早稲田大学 理工学研究所　顧問研究員（早稲田大学　名誉教授）
酒井 宏水　早稲田大学 理工学研究所　准教授

研究要旨

厚生労働科学研究として推進されている人工赤血球：ヘモグロビン（Hb）小胞体は、感染や血液型不適合の心配がなく、長期間保存が可能で、十分な安全性と機能が実証されている。高濃度 Hb 溶液を脂質二層膜で被覆した微粒子（粒径：250 nm）として最終処方が決定され、現在、臨床治験に向けた準備が進められている。本年度は、Hb 小胞体の構造安定度に焦点を当てた検討を行った。赤血球は物理的要因によって溶血することが知られている。人工赤血球が生体内で安定に機能するには、少なくとも赤血球と同等の溶血耐性を有していることが望まれる。また、ICU で高頻度に認められるショック状態では、生体からの活性酸素発生が亢進し酸化的ストレスにより脂質膜が障害されるなど、化学的な要因も考慮する必要がある。各種刺激に対する溶血率を指標にした検討の結果、Hb 小胞体が赤血球に比して優れた構造安定性を有していることが示された。

1. 赤血球溶血因子に対する Hb 小胞体の耐性

A. 研究目的

Hb 小胞体は Hb をリン脂質二層膜で被覆することにより Hb 分子の毒性を回避している。Hb の漏出は Hb 分子の毒性を誘発する可能性があるため、構造安定性について充分な評価を行う必要がある。赤血球は各種の物理的、化学的、生物的要因により溶血することが知られているが、通常の循環に必要な構造安定性は有している。本研究では、赤血球溶血を誘起することが知られている物理的要因と生物的要因が Hb 小胞体からの Hb 漏出に与える影響を赤血球と比較して、Hb 小胞体の構造安定性について知見を得ることを目的とした。

B. 研究方法

洗浄赤血球は新鮮血液を遠心分離して調製した。本研究で使用した Hb 小胞体は、㈱オキシジェニクスにて調製され、諸物性値が確認された状態で研究用試料として提供された。以下の条件で溶血性試験を実施した。

低張溶血: 洗浄赤血球あるいは Hb 小胞体分散液を純水で 5 倍希釈し、浸透圧ショックを与えた。

凍結融解: 洗浄赤血球および Hb 小胞体分散液を液体窒素で急速凍結し、室温で放置して融解した。

ホスホリパーゼ A2(PLA2): 洗浄赤血球および Hb 小胞体分散液に PLA2（蛇毒由来）溶液を添加し 37℃で 30 分ないし 2 時間静置した。

これらの処理を行った分散液を超遠心分離して、

上澄み中のHbをシアノメトHb法により定量して溶血率を算出した。

C. 研究結果・考察

各種刺激によるHb小胞体と赤血球からのHb漏出率を表 1 にまとめた。低張溶血により 94.0±0.7%のHbが赤血球から漏出したが、Hb小胞体では同条件の浸透圧変化にてわずか0.4±0.0%のHbが溶出するに留まった。正常な赤血球では0.5%生理食塩水で溶血を開始し、0.35%で完全に溶血することが知られている。本実験では 0.18%の低張液にて高い浸透圧ショックを与えているにも関わらずHb小胞体の内包構造は保持されることから、晶質浸透圧変化に対して Hb 小胞体が高い耐性を有していることがわかる。

凍結融解では氷の結晶化の進行により膜構造が断片化する。凍結融解では赤血球とHb小胞体の両者でHbの漏出を認め、凍結保護剤なしでのHb小胞体の凍結は禁忌事項として挙げられる。しかし、赤血球では77.6±1.2%のHbが漏出したのに対し、Hb小胞体では20.4±1.2%であることから、Hb小胞体の凍結融解に対する耐性は比較的高く、赤血球より凍結保存は容易であるといえる。

また、ホスホリパーゼ A2 (PLA2)を共存させると、赤血球では経時的に溶血が進行するのに対し、Hb小胞体では2時間後まで殆ど溶血を認めなかった。PLA2はグリセロールの2位炭素にエステル結合したアシル鎖の加水分解に関与するため、反応には二分子膜内部のエステル結合に接近する必要がある。このため、二分子膜の充填状態の影響を強く受ける。Hb小胞体膜では脂質分子充填が高く、PLA2 が二分子膜中のエステル結合部に接近できないと考えられる。

以上の結果は、通常赤血球が安定に循環できる環境では、Hb小胞体は充分な構造安定性を有していることを示している。一方で、PLA2などリン脂質分解酵素による分解速度は脂質代謝に関連するため、構造的に安定な膜ほど脂質代謝が遅延する可能性を示唆している。この点はより詳細な検討を必要とする。

表 1 各種刺激に対する赤血球と Hb 小胞体の溶血率の比較

Stimuli	Hemolysis (%)	
	RBC	HbV
Hypotonic lysis	94.0±0.7	0.4±0.0
Freeze-thawing	77.6±1.2	20.4±1.2
PLA2, 30 min	12.8±0.3	0.0±0.0
PLA2, 2h	17.7±0.7	0.1±0.0

2. 活性酸素と脂質二層膜成分の反応性

A. 研究目的

従来、生体膜を構成する不飽和リン脂質は活性酸素種との反応により酸化され過酸化脂質となることが知られている。この反応は特に不飽和脂肪酸の電子移動が関与している。一方、Hb小胞体は飽和型脂質を使用しているため活性酸素種に対する反応性は低いと考えられるが定量的な検討は行われていない。本研究では、生体内で発生することが知られているスーパーオキシドアニオン（$O_2^{\cdot-}$）との反応性を調査することを目的とした。

B. 研究方法

飽和型の DPPC および卵黄ホスホコリン（EYPC）を主成分とする小胞体を調製した（図1）。脂質組成はDPPC/Cholesterol (5/5, モル比)およびEYPC/Cholesterol (5/5, モル比)とした。この粉末を生理食塩水に添加し、1時間水和撹拌した。エクストルージョン（最終フィルター孔径：0.2 μm）により粒子径を制御し小胞体を得た。

$O_2^{\cdot-}$はヒポキサンチン(0.5 mM)－キサンチンオキシダーゼ(25mU/mL)系で発生させた。$O_2^{\cdot-}$の定量検出には 8-amino-5-chloro-7-phenylpyrid[3,4-*d*]pyridazine-1,4-(2H,3H) dione sodium salt (L-012)の化学発光を利用した。小胞体（リン脂質濃度：5mM）を共存させ、化学発光強度の減少から$O_2^{\cdot-}$との反応性

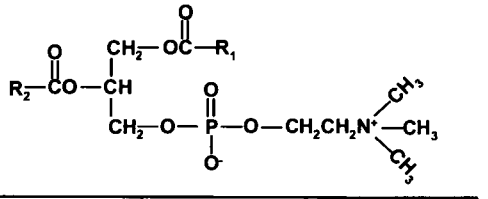
を評価した。

C. 研究結果・考察

図 1 に示すように、天然リン脂質はグリセロールの 2 位炭素に不飽和脂肪酸を有している。特に酸化されやすいのはリノール基やリノレン基などの多価不飽和脂肪酸であり、アリル位の電子状態が不安定なことに由来する。一定量の $O_2^{\cdot-}$ 発生系で DPPC 小胞体あるいは EYPC 小胞体を共存させると、EYPC 小胞体系で検出される $O_2^{\cdot-}$ は DPPC 小胞体系に比較して 85%であり、EYPC は DPPC 比較して $O_2^{\cdot-}$ と高い反応性を有していることを示している（図 2)。Hb 小胞体の脂質二層膜成分は生体膜に比して活性酸素との反応性に乏しいため、酸化的雰囲気においても Hb 小胞体膜の構造と機能は比較的安定に保持されると考えられる。

D. 結論

飽和型リン脂質（DPPC）を主成分とする Hb 小胞体は、生体由来の不飽和リン脂質に比較して活性酸素に対する反応性に乏しい。生体から発生する活性酸素による酸化に対して安定であることを示す結果である。



Abbreviation	$OOCR_1$	$OOCR_2$
DPPC	palmitoyl	palmitoyl
EYPC	saturated (C_{12}-C_{22})	unsaturated (C_{12}-C_{20})

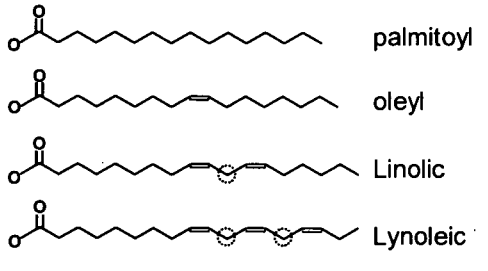


図 1. 飽和型リン脂質と天然リン脂質の構造

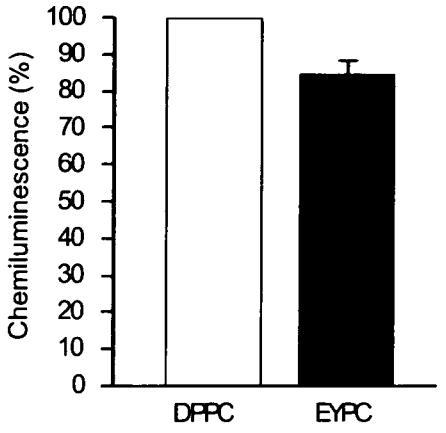


図2. 化学発光分析による小胞体とスーパーオキシドオニオンの反応性の比較

E. 研究発表

1. 発表論文

1. K. Sou, E. Tsuchida, "Electrostatic interactions and complement activation on the surface of phospholipid vesicles containing acidic lipids: Effect of the structure of acidic groups" *Biochim. Biophys. Acta-Biomembranes,* 2008 (in press).
2. K. Sou, S. Inenaga, S. Takeoka, E. Tsuchida, "Loading of curcumin into macrophages using lipid-based nanoparticles" *Int. J. Pharm,*, **352**:287-293, 2008.
3. H. Sakai, K. Sou, H. Horinouchi, K. Kobayashi, E. Tsuchida, "Hemoglobin-vesicles as artificial oxygen carriers: Present situation and future vision" *J. Intern. Med.*, **263**:4-15, 2008.
4. H. Sakai, K. Sou, E. Tsuchida, "Solution to the problems of acellular Hbs by encapsulation, and the intrinsic issues of Hb-vesicles as a molecular assembly" *Transfus. Altern. Transfus. Med.*, **9**: 226-236, 2007.
5. K. Sou, B. Goins, S. Takeoka, E. Tsuchida, W.T. Phillips, "Selective uptake of surface-modified phospholipid vesicles by bone marrow macrophages *in vivo*", *Biomaterials*, **28**:2655-2666, 2007.

2. 学会発表

1. K. Sou and E. Tsuchida / Physicochemical

characteristics and biodistribution of vesicles modified with carboxylic acids and poly(ethylene glycol) / 12th IUPAC International Symposium on MacroMolecular Complexes / 2007.8.27-31 / Fukuoka.

2. T. Sato, H. Sakai, K. Sou, O. Glatter, and E. Tsuchida / Static and dynamic structural of hemoglobin vesicle (HbV) and related bio-inspired systems / 12th IUPAC International Symposium on MacroMolecular Complexes / 2007.8.27-31 / Fukuoka.
3. K. Sou, H. Sakai, E. Tsuchida / Surface characteristics of hemoglobin-vesicles: Electrostatic properties and interaction with blood components / The XIth International Symposium on Blood Substitutes / 2007.10.19-22 / Beijing, China.
4. H. Sakai, A Sato, K. Sou, H. Horinouchi, K. Kobayashi, E. Tsuchida / Hemoglobin-vesicles as artificial oxygen carriers: Interaction with ligand molecules in the production process and in blood circulation / The XIth International Symposium on Blood Substitutes / 2007.10.19-22 / Beijing, China.
5. H. Horinouchi, N. Aikawa, M. Kohno, Y. Izumi, H. Sakai, K. Sou, T. Komatsu, E. Tsuchida, K. Kobayashi / Change of cytokine production in intra-abdominal hemorrhage model. -Effect of hemoglobin vesicles / The XIth International Symposium on Blood Substitutes / 2007.10.19-22 / Beijing, China.
6. T. Ikeda, H. Horinouchi, M. Kohno, Y. Izumi, M. Watanabe, H. Sakai, K. Sou, E. Tsuchida, K. Kobayashi / Resusctitation effect and long term effect of Hb vesicles on organ function in beagle dog / The XIth International Symposium on Blood Substitutes / 2007.10.19-22 / Beijing, China.
7. T. Sato, H. Sakai, K. Sou, O. Glatter, and E. Tsuchida / Accurate and quantitative determination of the structural profiles of hemoglobin vesicles by means of x-ray and light scattering techniques / The XIth International Symposium on Blood Substitutes / 2007.10.19-22 / Beijing, China.
8. K. Sou, B. Goins, W.T. Phillips, E. Tsuchida / Organ specific distribution of surface modified nanoparticles with carboxylic acids and poly(ethylene glycol) / 9th International Symposium on. Polymers for Advanced Technologies / 2007.10.22-25 / Shanghai, China.
9. T. Sato, H. Sakai, K. Sou, O. Glatter, E. Tsuchida / Static structures and dynamics of hemoglobin vesicle (artificial blood substitute) and its related systems / 9th International Symposium on Polymers for Advanced Technologies / 2007.10.22-25 / Shanghai, China.
10. E. Tsuchida, K. Sou, H. Sakai, K. Kobayashi / Hemoglobin-vesicles as a molecular assembly: physicochemical characterization and physiological performances as a transfusion altenative (INVITED LECTURE) / 9th International Symposium on Polymers for Advanced Technologies / 2007.10.22-25 / Shanghai, China.

別添５

表　研究成果の刊行に関する一覧表

刊行書籍又は雑誌名（雑誌のときは雑誌名、巻号数、論文名）	刊行年月日	刊行書店名	執筆者名
Effects of magnesium sulfate on neuromuscular function and spontaneous breathing during sevoflurane and spinal anesthesia. *J Anesth* **21**:86-89, 2007.	2007年4月	Springer Japan	Serita R, Morisaki H, Tanaka C, Kosugi S, Sakuraba S, Takeda J
Nicorandil decreases cardiac events during and after noncardiac surgery. *J Clin Anesth* **19**:44-48, 2007.	2007年4月	Elsevier	Kashimoto S, Seki N, Ishiguro T, Yoshioka H, Nagata O, Nishimura K, Kikuchi T, Yamada T, Iwade M, Omi A, Honda O, Sakamoto A, Ogihara Y, Fujimoto K, Nakaigawa Y, Kato J, Watanabe A, Nomura M, Takeda J
Impact of Sonoclot hemostasis analysis after cardiopulmonary bypass on postoperative hemorrhage in cardiac surgery. *J Anesth* **21**:148-152, 2007.	2007年4月	Springer Japan	Yamada T, Katori N, Tanaka K, Takeda J
Inhibition of neutrophil elastase attenuates gut mucosal injury evoked by acute alveolar hypoxia in rabbits. *Shock* **28**(1):101-105, 2007.	2007年7月	Lippincott Williams&Wilkins	Nakamura N, Morisaki H, Suzuki T, Yajima S, Katori N, Kotake Y, Funakoshi Y, Kawabata K, Yamada S, Ishizaka A, Takeda J
新しい非脱分極性神経筋遮断薬ロクロニウム(Org9426)の紹介, *臨床麻酔* **31**（4）：677-692, 2007	2007年4月	真興交易医書出版部	小竹良文 武田純三
冠攣縮性狭心症を合併したQT円腸症候群患者の麻酔経験. *臨床麻酔* **31**（5）：905－906, 2007.	2007年5月	真興交易医書出版部	小谷聡秀、森山 潔、山田達也、森崎 浩、武田純三
特集「手術室における薬剤業務の推進」　麻酔科医からの期待. *月刊 薬事* **49**（7）：963－966,2007	2007年7月	じほう	武田純三
プロポフォールとデクスメデトミジン併用による鎮静と血中濃度のシミュレーションに関する検討. *日臨麻会誌* **27**（4）：351－357, 2007.	2007年7月	日本臨床麻酔学会	小竹良文、鈴木武志、長田大雅、山田高成、武田純三
Mulvihill-Smith症候群の麻酔経験. *麻酔* **56**(7)：835－837, 2007.	2007年7月	真興交易医書出版部	栗林淳也、山田達也、森崎浩、武田純三

麻酔の質の向上を目指して－特集に当たって. *Pharma Medica* **25**(8):7-8, 2007.	2007年8月	メディカルレビュー社	武田純三
Patient Controlled Analgesia(PCA：患者自己管理鎮痛法). *Pharma Medica* **25**(8):35-38, 2007.	2007年8月	メディカルレビュー社	橋口さおり、武田純三
Systemic Administration of Hemoglobin Vesicle Elevates Tumor Tissue Oxygen Tension and Modifies Tumor Response to Irradiation. *J Surg Res*. 2008.	印刷中	Elsevier	Yamamoto M, Izumi Y, Horinouchi H, Teramura Y, Sakai H, Kohno M, Watanabe M, Kawamura M, Adachi T, Ikeda E, Takeoka S, Tsuchida E, Kobayashi K.
Hemostatic efficacy of a recombinant thrombin-coated polyglycolic acid sheet coupled with liquid fibrinogen, evaluated in a canine model of pulmonary arterial hemorrhage. *J Trauma*. **63**:783-7, 2007.	2007年10月	Lippincott Williams&Wilkins	Izumi Y, Gika M, Shinya N, Miyabashira S, Imamura T, Nozaki C, Kawamura M, Kobayashi K.
Syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone after chemotherapy with vinorelbine. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2008	印刷中	Springer	Kuroda H, Kawamura M, Hato T, Kamiya K, Kawakubo M, Izumi Y, Watanabe M, Horinouchi H, Kobayashi K
Cross-linked poly (gamma-glutamic acid) attenuates peritoneal adhesion in a rat model. *Surgery*. **141**(5):678-81, 2007.	2007年5月	Mosby, Inc	Izumi Y, Yamamoto M, Kawamura M, Adachi T, Kobayashi K.
Hyperthermia-enhanced tumor accumulation and antitumor efficacy of a doxorubicin-conjugate with a novel macromolecular carrier system in mice with non-small cell lung cancer. *Oncol Rep*. **17**(3):653-9, 2007.	2007年3月	Spandidos Publications Ltd.	Oyama T, Kawamura M, Abiko T, Izumi Y, Watanabe M, Kumazawa E, Kuga H, Shiose Y, Kobayashi K.
Aortic translocation with autologous tissue. *Tex Heart Inst J*. **34**:420-2, 2007.	2007年12月	Texas Heart R Institute, Houston	Aeba R, Yozu R.
Working'cardiomyocytes exhibiting plateau action potentials from human placenta-derived extraembryonic mesodermal cells. *Exp Cell Res*. **313**:2550-62, 2007.	2007年7月	Elsevier	Okamoto K, Miyoshi S, Toyoda M, Hida N, Ikegami Y, Makino H, Nishiyama N, Tsuji H, Cui CH, Segawa K, Uyama T, Kami D, Miyado K, Asada H, Matsumoto K, Saito H, Yoshimura Y, Ogawa S, Aeba R, Yozu R, Umezawa A.

Editorial comment. 成田純任，石川司朗，石川友一，中村真，牛ノ濱大也，佐川浩一，總崎直樹，中野俊秀，角秀秋.Ross 手術後の中期遠隔期の心機能-機械弁置換術との比較 *心臓* **39**：1063, 2007.	2007 年 12 月	日本心臓財団	饗庭　了
A case report of surgical correction for congenital mitral regurgitation with subvalvular apparatus abnormality. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* **56**:36-8, 2008.	2008 年 1 月	Springer Japan	Kudo M, Yozu R, Aeba R, Kokaji K, Kimura N, Iwanaga S.
心臓血管外科学テキスト　龍野勝彦、重松宏、幕内晴朗、四津良平、阿達秀雄　編著 ALCAPA　p129-131.2007 中外医学社　版	2007 年 9 月	中外医学社	饗庭　了
心臓血管外科学テキスト　龍野勝彦、重松宏、幕内晴朗、四津良平、阿達秀雄　編著修正大血管転位 p190-193.2007　中外医学社　版	2007 年 9 月	中外医学社	饗庭　了
Electrostatic interactions and complement activation on the surface of phospholipid vesicles containing acidic lipids: Effect of the structure of acidic groups. *Biochim. Biophys. Acta-Biomembranes,* 2008.	印刷中	Elsevier	Sou K, Tsuchida E
Loading of curcumin into macrophages using lipid-based nanoparticles. *Int. J. Pharm,*, **352**:287-293, 2008.	2008 年 3 月	Elsevier	Sou K, Inenaga S, Takeoka S, Tsuchida E
"Hemoglobin-vesicles as artificial oxygen carriers: Present situation and future vision" *J. Intern. Med.,* **263**:4-15, 2008.	2008 年 1 月	Blackwell Publishing	Sakai H, Sou K, Horinouchi H, Kobayashi K, Tsuchida E
Solution to the problems of acellular Hbs by encapsulation, and the intrinsic issues of Hb-vesicles as a molecular assembly" *Transfus. Altern. Transfus. Med.*, **9**:226-236, 2007.	2007 年 12 月	Blackwell Publishing	Sakai H, Sou K, Tsuchida E
Selective uptake of surface-modified phospholipid vesicles by bone marrow macrophages *in vivo*, *Biomaterials*, **28**:2655-2666, 2007.	2007 年 6 月	Elsevier	Sou K, Goins B, Takeoka S, Tsuchida E, Phillips WT

研究成果の刊行物・別冊

(2007.4～2008.3)

J Anesth (2007) 21:86–89
DOI 10.1007/s00540-006-0452-3

Journal of
Anesthesia

Effects of magnesium sulfate on neuromuscular function and spontaneous breathing during sevoflurane and spinal anesthesia

RYOHEI SERITA, HIROSHI MORISAKI, CHIKAKO TANAKA, SHIZUKO KOSUGI, SHIGEKI SAKURABA, and JUNZO TAKEDA

Department of Anesthesiology, Keio University School of Medicine, 35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan

Abstract
The purpose of the present study was to determine the effects of magnesium sulfate ($MgSO_4$) on the neuromuscular function and spontaneous breathing of patients under sevoflurane and spinal anesthesia. Twenty-two patients with a history of arrhythmia undergoing elective knee surgery were randomly assigned to two groups: group M ($n = 11$), administered with $MgSO_4$ 40 mg·kg^{-1}, and group S ($n = 11$), administered with saline. A combination of spinal anesthesia with 2% sevoflurane inhalation was applied to all patients under spontaneous breathing. Tidal volume (VT), respiratory rate (RR) and end-tidal carbon dioxide (ET_{CO_2}) were measured before the $MgSO_4$ or saline injection and measurements were repeated at 5, 15, 30, and 45 min after the injection. Neuromuscular function was continuously monitored with an acceleromyograph to record the acceleration of the adductor pollicis by stimulating the ulnar nerve at a frequency of 0.1 Hz. The VT, RR, and ET_{CO_2} showed little change in either group, and there was no significant difference between, the groups. The single-twitch response showed significant differences between the two groups ($P = 0.0006$). The present study indicated that the $MgSO_4$ had a minimal effect on spontaneous breathing in patients undergoing sevoflurane and spinal anaesthesia, but that it attenuated the safety margin of neuromuscular function.

Key words Magnesium sulfate · Neuromuscular function · Respiratory function · Sevoflurane

Magnesium sulfate ($MgSO_4$) has been used as an antiarrhythmic agent during non-cardiac anesthesia as well as cardiac anesthesia [1,2]. Although the prophylactic use of $MgSO_4$ for arrhythmia has been controversial [3], Terzi et al. [2] showed that the prophylactic use of $MgSO_4$ reduced the incidence of atrial arrhythmias in thoracic surgery.

On the other hand, $MgSO_4$ has been shown to potentiate the action of muscle relaxants and is reported to cause muscle weakness associated with respiratory insufficiency when administered at a comparatively high dose [4,5]. The mechanism of the muscle relaxant effect of $MgSO_4$ is shown as a result of competition with calcium ion (Ca^{2+}) for membrane channels and the inhibition of acetylcholine (ACh) release from the neuromuscular junction [6]. During inhalational and spinal anesthesia, these effects of $MgSO_4$ in patients with arrhythmia may be enhanced by interaction with volatile anaesthetics, and calcium channel blockers, and by advanced age [7–9]. However, it is still unknown how $MgSO_4$ per se affects neuromuscular function and spontaneous breathing under anesthesia. The purposes of the present study were to determine the effect of $MgSO_4$ in attenuating neuromuscular function and spontaneous breathing during sevoflurane and spinal anesthesia.

After obtaining institutional ethics committee approval from the Keio University School of Medicine, and obtaining informed consent from the patients, 22 patients undergoing elective knee surgery were enrolled in this double-blinded, randomized, placebo-controlled, prospective study. The patients fulfilled the following criteria: (1) American society of Anesthiologists (ASA) physical status II or III and (2) a history of arrhythmias. Patients who had any neurological abnormalities were excluded from the study.

All patients were premedicated with hydroxyzine 25–50 mg and atropine sulfate 0.5 mg intramuscularly 1 h before induction. The patients received spinal anesthesia with 0.5% isobaric bupivacaine through the L3/4 interspace. Fifteen minutes after spinal anesthesia was induced, and at the end of the operation, the blocking height was confirmed by the pin-prick method below Th10. Anesthesia was induced with propofol 2–2.5 mg·kg^{-1} intravenously, for the placement of a laryngeal mask airway, and maintained with the inhalation of oxygen-air (fraction of inspired oxygen) ([$F_{I_{O_2}}$], 0.4) and

Address correspondence to: R. Serita
Received: December 22, 2005 / Accepted: September 14, 2006

2% sevoflurane under spontaneous breathing. A standard optimal circle system was used with high fresh gas flow (6 l·min^{-1}) during anesthesia.

Thirty minutes after induction, baseline respiratory variables, including tidal volume (VT), respiratory rate (RR), and end-tidal carbon dioxide (ET_{CO_2}), were measured by using an expiration gas analyzer (Datex; Capnomac Ultima-SVi, Helsinki, Finland). Mean indirect arterial pressure (MAP) and heart rate (HR) were also measured. The eligible patients were randomly assigned to two groups: group M received 40 mg·kg^{-1} $MgSO_4$ injection, considered as the initial dose for the treatment of arrhythmias [10], and group S received an equal volume of saline. An independent investigator, who was not involved in the data collection, prepared the solution in advance. The measurements were repeated at 5, 15, 30, and 45 min after injection.

Neuromuscular function was evaluated by an acceleromyograph (TOF-Guard; Organon Teknika, Turnhout, Belgium) to record the acceleration of the adductor pollicis by stimulating the ulnar nerve. After induction, the stimulating mode was initially set as the autonomic stimulating mode (TOF I mode) to stimulate supramaximally, and reset as single-twitch mode with a frequency of 0.1 Hz. The control single-twitch height was recorded before sevoflurane anesthesia, and the single-twitch height was monitored continuously during the study. We measured TOF values at the end of study if the single-twitch height was reduced by more than 30%. Data were recorded and analyzed using Card Reader Ver.1.1 software (Organon Teknika). Palmar skin and body temperature were monitored and kept above 34°C and 36.5°C, respectively. Supplemental oxygen (6 l·min^{-1}) was administered via a face mask during 6 h after the operation.

All data values are expressed as means (SD) [ranges] unless otherwise described. Before we started the present study, in 8 other patients administered with $MgSO_4$, we determined the number of subjects needed to achieve 90% power to detect a difference of 20% in single-twitch height, with $\alpha = 0.05$. Based on a power calculation, it was shown 22 subjects were needed. The patients' characteristics were analyzed by using Student's *t*-test and the χ^2 test for differences between the groups. The measurement variables were analyzed by two-way repeated-measures analysis of variance between the groups, followed by Student's *t*-test with Bonferroni correction at each time point. The Mann-Whitney *U*-test was used to compare differences in the minimum single-twitch height. A *P* value of <0.05 was considered as statistically significant.

Patient characteristics were not significantly different between the two groups (Table 1). Three of the 11 $MgSO_4$ patients had been medicated with nifedipine to treat hypertension. No patient was receiving steroid therapy or aminoglycoside antibiotics.

Hemodynamic and respiratory variables in the two groups showed similar changes and did not change significantly throughout the study period (Table 2). The single-twitch responses in group M were significantly depressed throughout the study period ($P = 0.0006$) (Fig. 1). The minimum twitch-height responses were significantly lower in group M than in group S (76.2% (18.3%) [40%–90]% versus 95.8% (3.7%) [90%–100]%, respectively; $P = 0.002$), and the duration from $MgSO_4$ or saline injection to that point was 246.3 (65.2) [200–360] s in group M. Three patients in group M (aged 71, 76, and 76 years) showed over 30% reductions in twitch responses (51%, 70%, and 67% of control, respectively). The TOF ratio (T4/T1) of these three patients was not decreased at the end of the study (110%, 102%, and 108%, respectively).

While three patients in group S showed arrhythmias (one, premature ventricular contractions and the others, supraventricular premature contractions) during anesthesia, no patient in group M had any arrhythmias ($P = 0.06$; χ^2 test). In group M, no patient was observed to have hypoventilation, desaturation (defined as

Table 1. Patients' characteristics

	Group S ($n = 11$)	Group M ($n = 11$)
Age (years)	66 (9.3) [55–75]	73 (4.6) [66–81]
Height (cm)	151.5 (9.4) [139–171]	149.2 (7.8) [141–162]
Weight (kg)	57.8 (9.0) [45–73]	53.8 (7.0) [44–62]
Sex (M/F)	3/8	3/8
ASA physical status (II/III)	8/3	8/3
Type of arrhythmia		
Supraventricular	9	7
Ventricular	2	4
Treatment with calcium channel blocker	2	3

Values are means (SD) [ranges] or numbers of patients. There were no significant differences between the groups

Table 2. Respiratory and hemodynamic changes after injection

	Group	Baseline	Time after injection (min)			
			5	15	30	45
Heart rate (min^{-1})	S	75.8 (9.8) [57–90]	75.3 (9.9) [56–92]	73.6 (10.2) [55–90]	73.6 (9.9) [54–85]	73.9 (9.1) [54–84]
	M	67.2 (10.1) [54–84]	67.5 (13.2) [49–94]	65.6 (10.0) [53–80]	66.3 (11.1) [50–78]	67.3 (13.3) [50–81]
Mean arterial pressure (mmHg)	S	66.5 (8.0) [54.3–78]	65.4 (7.3) [53–78]	63.6 (7.0) [55.3–77.3]	63.8 (8.1) [54.7–77]	67.3 (11.1) [53.7–93]
	M	70.8 (7.7) [62–83]	64.5 (6.8) [56.3–79]	68.2 (5.1) [64–79]	66.4 (7.4) [63–81]	71.8 (4.0) [65.3–78.3]
Tidal volume ($ml \cdot kg^{-1}$)	S	4.8 (0.8) [3.7–6.3]	4.8 (0.8) [3.7–6.4]	4.8 (0.9) [3.7–6.2]	4.7 (0.7) [3.8–6.0]	4.7 (0.8) [3.6–6.0]
	M	4.9 (0.8) [4.0–6.1]	4.9 (0.8) [4.0–6.3]	4.9 (0.9) [3.7–6.7]	4.8 (0.8) [3.8–6.4]	4.8 (0.7) [4.0–6.2]
End-tidal CO_2 (mmHg)	S	43.1 (3.6) [37–48]	42.6 (3.2) [37–46]	43.0 (3.6) [37–48]	42.6 (3.3) [37–46]	42.0 (3.8) [38–48]
	M	40.6 (3.8) [36–47]	40.4 (3.7) [36–47]	40.4 (3.9) [35–47]	39.7 (3.9) [33–47]	39.1 (4.0) [31–45]
Respiratory rate (min^{-1})	S	17.9 (4.2) [10–26]	18.1 (4.1) [11–26]	18.2 (3.9) [11–26]	18.1 (4.1) [10–25]	18.6 (4.0) [11–26]
	M	17.6 (5.7) [11–31]	18.0 (5.4) [11–29]	18.0 (5.8) [11–32]	18.6 (6.3) [11–35]	19.8 (6.3) [11–36]

Values are means (SD) [ranges]. There were no significant differences between the groups

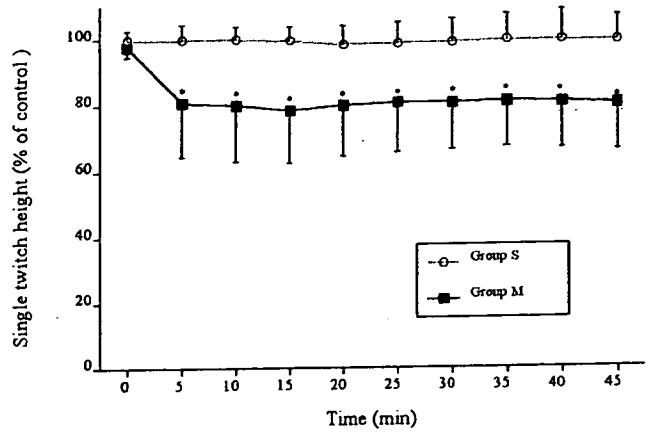


Fig. 1. The single-twitch responses in *group M* (treated with $MgSO_4$ 40 $mg \cdot kg^{-1}$) were significantly depressed compared with those *group S* (treated with saline) until 45 min after the injection ($P = 0.0006$ two-way repeated measures analysis of variance). $^*P < 0.002$ vs group S (Student's *t*-test with Bonferroni correction)

peripheral oxygen saturation [Sp_{O_2}] < 95% under supplemental oxygen therapy), or delayed awakening.

Although $MgSO_4$ use has been controversial as a prophylactic anti-arrhythmic agent, it has been used as such an agent during non-cardiac anesthesia. We therefore studied patients with a history of arrhythmia who were likely to be administered with $MgSO_4$ during non-cardiac anesthesia and who may have been more sensitive to the neuromuscular inhibition of $MgSO_4$ as a result of aging and administration of a calcium channel blocker. The present study indicated that the administration of $MgSO_4$ at a moderate dose (40 $mg \cdot kg^{-1}$) in patients with a history of arrhythmia seemed to have little effect on spontaneous breathing and did not cause hypoventilation during sevoflurane and spinal anesthesia. However, the single-twitch responses had diminished by about 20% at the end of the study. These findings suggest that $MgSO_4$ should be used cautiously in patients with a history of arrhythmia during sevoflurane and spinal anesthesia.

The major factors that enhanced the effect of $MgSO_4$ on the neuromuscular system in present study might be considered as an interaction with sevoflurane, the spinal anesthesia, the age of the patients, and the use of calcium channel blockers [7–9]. First, although sevoflurane brought about little change of the twitch responses in the control group, sevoflurane has been shown to potentiate the effect of neuromuscular blocking agents [7]. Sevoflurane may act synergistically with $MgSO_4$ on the neuromuscular junction, but the present study did not confirm this effect. On the other hand, $MgSO_4$ administration had little effect on spontaneous breathing. Inhalational anesthetics depress the function of the parasternal intercostal muscles and cause diaphragmatic

function to be dominant under spontaneous respiration [11,12]. Furthermore, the diaphragma is more resistant to neuromuscular blocking agents than peripheral muscle [13]. Therefore, there was some possibility that such a sparing effect of respiratory muscles could have occurred in our patients treated with $MgSO_4$.

Secondly, spinal blockade may modify the functional state of the neuromuscular junctions through the depression of afferent impulses. The blockade of afferent impulses into the central nervous system is reported to have lessened the dose of sedatives required [14]. Central neural influences on neuromuscular transmission may explain the frequent failure of evoked electromyographic responses, but no investigation has been performed to clarify the alterations of neuromuscular function during spinal anesthesia. The possibility of an effect of spinal blockade, however, could not be excluded in our study.

Thirdly, with aging, there may be overactivity in response to magnesium at the neuromuscular junction, because the acetylcholine (ACh) content at the neuromuscular junction is reduced with aging [9]. In the present study, three patients aged over 70 years showed a marked reduction of single-twitch height. Because the TOF ratio in these three patients did not decrease, it seems that $MgSO_4$ did not inhibit the release of ACh from the neuromuscular junction with the moderate dose administered. However, high-dose administration of $MgSO_4$ during anesthesia should be used cautiously in older patients.

Finally, patients with arrhythmias may have other cardiovascular complications, e.g., hypertension and ischemic heart disease, and these patients may have been medicated with a calcium channel blocker, such as nifedipine, which has been shown to enhance neuromuscular blockade [8]. In our patients, 3 of the 11 treated with $MgSO_4$ had been medicated with nifedipine to treat hypertension. The reduction of single-twitch height in these patients was similar to that in the other patients, but further study is needed to evaluate the possible interaction of calcium channel blockers with $MgSO_4$.

In regard to the limitations of our study, we observed the responses of single-twitch height for only 45 min after $MgSO_4$ injection, because $MgSO_4$ (40 $mg \cdot kg^{-1}$) had been reported to prolong the duration of recovery to 75% of the twitch height of vecuronium (0.1 $mg \cdot kg^{-1}$) for approximately 30 min [15]. However, it should be noted that the responses of single-twitch height were depressed about by 20% at 45 min after the $MgSO_4$ injection. Such prolonged effects of $MgSO_4$ on the neuromuscular system suggest that we should keep monitoring the single-twitch for a longer time period. We did not measure obvious indicators in our subjects, such as the plasma magnesium concentration.

In summary, the current preliminary study indicated that $MgSO_4$ injection at the initial dose used for the treatment of arrhythmias caused a substantial, but not clinically apparent, risk of limiting spontaneous breathing in patients with a history of arrhythmia under sevoflurane and spinal anaesthesia. However, we investigated only V_T, RR, and ET_{CO_2} and did not determine other optimal variables, such as maximum inspiratory pressure. A further study would be needed to evaluate in detail the effects of $MgSO_4$ on the respiratory system during anesthesia.

References

1. Dorman BH, Sade RM, Burnette JS, Wiles HB, Pinosky ML, Reeves ST, Bond BR, Spinale FG (2000) Magnesium supplementation in the prevention of arrhythmias in pediatric patients undergoing surgery for congenital heart defects. Am Heart J 139:522–528
2. Terzi A, Furlan G, Chiavacci P, Dal Corso B, Luzzani A, Dalla Volta S (1996) Prevention of atrial tachyarrhythmias after noncardiac thoracic surgery by infusion of magnesium sulfate. Thorac Cardiovasc Surg 44:300–303
3. Fuchs-Buder T, Tassonyi E (1996) Magnesium sulphate enhances residual neuromuscular block induced by vecuronium. Br J Anaesth 76:565–566
4. Morisaki H, Yamamoto S, Morita Y, Kotake Y, Ochiai R, Takeda J (2000) Hypermagnesemia-induced cardiopulmonary arrest before induction of anesthesia for emergency cesarean section. J Clin Anesth 12:224–226
5. Hubbard JI, Jones SF, Landau EM (1968) On the mechanism by which calcium and magnesium affect the release of transmitter by nerve impulses. J Physiol 196:75–86
6. Ross RM, Baker T (1996) An effect of magnesium on neuromuscular function in parturients. J Clin Anesth 8:202–204
7. Suzuki T, Munakata K, Watanabe N, Katsumata N, Saeki S, Ogawa S (1999) Augmentation of vecuronium-induced neuromuscular block during sevoflurane anaesthesia: comparison with balanced anaesthesia using propofol or midazolam. Br J Anaesth 83:485–487
8. Sekerci S, Tulunay M (1996) Interactions of calcium channel blockers with non-depolarising muscle relaxants in vitro. Anaesthesia 51:140–144
9. Smith DO (1984) Acetylcholine storage, release and leakage at the neuromuscular junction of mature adult and aged rats. J Physiol 347:161–176
10. Fawcett WJ, Haxby EJ, Male DA (1999) Magnesium: physiology and pharmacology. Br J Anaesth 83:302–320
11. Warner DO, Warner MA, Ritman EL (1995) Human chest wall function while awake and during halothane anesthesia. I. Quiet breathing. Anesthesiology 82:6–19
12. Ide T, Kochi T, Isono S, Mizuguchi T (1993) Diaphragmatic activity during isoflurane anaesthesia in dogs. Acta Anaesthesiol Scand 37:253–257
13. Laycock JR, Donati F, Smith CE, Bevan DR (1998) Potency of atracurium and vecuronium at the diaphragm and the adductor pollicis muscle. Br J Anaesth 61:286–291
14. Pollock JE, Neal JM, Liu SS, Burkhead D, Polissar N (2000) Sedation during spinal anesthesia. Anesthesiology 93:728–734
15. Fuchs-Buder T, Wilder-Smith OH, Borgeat A, Tassonyi E, Burkhead D, Polissar N (1995) Interaction of magnesium sulphate with vecuronium-induced neuromuscular block. Br J Anaesth 74:405–409

J Anesth (2007) 21:148–152
DOI 10.1007/s00540-006-0477-7

Journal of
Anesthesia

Impact of Sonoclot hemostasis analysis after cardiopulmonary bypass on postoperative hemorrhage in cardiac surgery

TATSUYA YAMADA[1], NOBUYUKI KATORI[1], KENICHI A. TANAKA[2], and JUNZO TAKEDA[1]

[1]Department of Anesthesiology, School of Medicine, Keio University, 35 Shinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan
[2]Deparment of Anesthesiology, Emory University School of Medicine, Atlanta, Georgia 30322, USA

Abstract
Purpose. The Sonoclot Analyzer provides a functional test of whole blood coagulation by measuring the viscous property of the blood sample. In this study, we used a modified Sonoclot assay, using cuvettes with a glass bead activator containing heparinase, and compared the Sonoclot data before and after cardiopulmonary bypass (CPB) to assess the usefulness in predicting postoperative hemorrhage.
Methods. In 41 cardiac surgery patients, Sonoclot data were obtained immediately after heparin administration (pre-bypass) and just before protamine administration (post-bypass). Excessive bleeding was defined as chest tube drainage greater than $2\,ml \cdot kg^{-1} \cdot h^{-1}$ in 1 h during the first 4 h after surgery.
Results. There were no significant differences in Sonoclot values before and after CPB in patients with acceptable bleeding ($n = 29$). In patients with excessive bleeding ($n = 12$), Sonoclot variables reflecting fibrin formation (activated clotting time [ACT], rate of fibrin formation [clot rate], and peak clot signal) were preserved after CPB; however, the variables reflecting platelet-fibrin interaction (time to peak, peak angle, and clot retraction rate) were significantly different from their respective pre-bypass values. Sonoclot analysis showed impairment of clot maturation after CPB in patients with excessive postoperative bleeding.
Conclusion. Our results suggest that abnormal postoperative hemorrhage can be predicted by Sonoclot analysis with a new glass bead-activated heparinase test performed after CPB.

Key words Sonoclot · Cardiac surgery · Postoperative hemorrhage

Introduction

Postoperative bleeding is a major cause of morbidity and mortality after cardiac surgery [1,2]. Because the etiology of postoperative hemorrhage is multifactorial, it is often difficult to predict bleeding risks with conventional tests, including activated clotting time (ACT), prothrombin time (PT), activated partial thromboplastin time (aPTT), platelet count, fibrinogen concentration, and platelet function tests. Each of these tests reflects an isolated portion of the hemostatic sequence, and therefore the overall complex interactions of coagulation defects may not be reliably evaluated.

The Sonoclot Coagulation and Platelet Function Analyzer (Sienco, Morrison, CO, USA) traces the transition of whole blood, from fluid to viscous clot, with a high-frequency (400-Hz) vibrating probe. Both clotting and late fibrinolytic state can be assessed with Sonoclot tracings, and defects of plasma factors, fibrinogen, and platelets may be detectable [3–5]. In this study, we report our initial experience of a modified Sonoclot assay using a cuvette containing a glass bead activator and heparinase. The use of glass beads improves the sensitivity of Sonoclot to platelet dysfunction, and heparinase allows testing to be performed during cardiopulmonary bypass (CPB). The aim of this study was to characterize the Sonoclot variables that are associated with increased postoperative bleeding after CPB. We hypothesized that hemostatic defects might be characterized by platelet-mediated mechanisms, and that the major proportion of cardiac surgical patients would develop characteristic Sonoclot variables during CPB.

Patients and methods

After Institutional Review Board (IRB) approval, informed written consent was obtained from 41 consecutive patients (24 men and 17 women) undergoing elective cardiac surgery using CPB. No patients had liver dysfunction, thrombocytopenia, or coagulopathy. Patients were excluded if they had received anticoagulant (warfarin or heparin) or antiplatelet (aspirin or ticlopidine) medications 7 days before surgery.

Address correspondence to: T. Yamada
Received: May 29, 2006 / Accepted: November 1, 2006

Anesthesia care and perfusion management were according to our routine protocol. Briefly, general anesthesia was maintained with fentanyl, midazolam, vecuronium, and sevoflurane. CPB was managed with a membrane oxygenator at a flow rate of between 2.2 and 2.6 l·min^{-1}·m^{-2}, and hypothermia during CPB was in the range of 28°C–32°C. Anticoagulation was maintained with unfractionated heparin (300 U·kg^{-1}) for CPB. The celite ACT was measured every 30 min and if the ACT was less than 480 s, additional heparin (100 U·kg^{-1}) was administered during CPB. No antifibrinolytic drug was used during surgery. A Cell Saver (Haemonetics, Braintree, MA, USA) was used in all patients. After termination of CPB, protamine (1 mg per 100 U of heparin) was given to all patients.

Whole blood samples were obtained from the brachial artery immediately after full heparin (300 U·kg^{-1} i.v.) administration (pre-bypass) and on termination of CPB just before protamine administration (post-bypass). Sonoclot coagulation analysis was performed by placing a small amount of whole blood (0.4 ml) into a cuvette consisting of a glass-bead activator with heparinase and a stir bar in which a vertically vibrating probe is suspended [3]. In contrast to the conventional celite or kaolin activators, the glass-bead activator initiates less contact activation, and therefore the onset of clot formation (ACT result) is more sensitive to heparin. With the use of heparinase, the glass-bead activation test may provide greater sensitivity to factor deficiencies in clot formation and clot retraction (platelet function). A comparative set of Sonoclot tracings from the preliminary experiments is shown in Fig. 1.

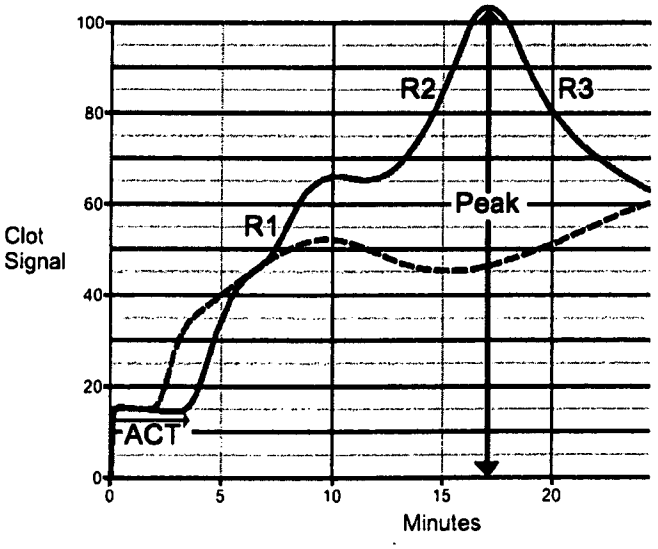


Fig. 1. Production of normal Sonoclot analysis (*solid line*) and abnormal Sonoclot analysis (*dotted line*). *ACT*, activated clotting time; *R1*, the primary slope; *R2*, the secondary slope; *R3*, the third downward slope; *peak*, peak impedance

The changes in mechanical impedance exerted on the probe by the changing viscoelastic properties of the forming clot are measured on a recorder. As fibrin strands form, impedance rises at various rates until the peak impedance is achieved. As shown in Fig. 1, the ACT is the onset time of the beginning of fibrin formation and the clot rate is the primary slope (R1) that reflects further fibrin formation from fibrinogen. This reaction is affected by both the quality of thrombin and the quantity of fibrinogen. After primary fibrin formation, an inflection point is often seen where the platelets start contracting the fibrin strands. The secondary slope (R2) reflects further fibrin formation and platelet-fibrin interaction that represents the completion of clot formation. The peak impedance (peak clot signal) reflects the completion of fibrin formation and represents the fibrinogen concentration. The time to peak is the value for the speed of clot formation, which depends not only on early fibrin formation but also on the dynamic combination of fibrin formation and early clot retraction. A downward slope after the peak signal (R3) represents clot retraction and is produced as platelets induce contraction of the completed clot. The peak angle is the angle between R2 and R3, and the clot retraction rate is the R3. The number of available platelets, as well as platelet function, determines the time to peak, peak angle, and clot retraction rate. Further decrease in impedance is caused by clot lysis [3,4]. Sonoclot data were analyzed by a single person who was blinded to the patients' demographics.

A separate blood sample was placed into an ethylene diamine tetraacetic acid (EDTA) tube, and platelet count and fibrinogen level were obtained.

The patient care team was not informed of the results of the Sonoclot measurements. Hemostatic product transfusion was guided by the conventional laboratory tests; fresh frozen plasma for PT more than 15 s and/or aPTT of more than 45 s, and platelet concentrates for platelet counts of less than $100 \times 10^3 \cdot mm^{-3}$.

We reviewed the Sonoclot and coagulation data of the patients based on the occurrence of excessive bleeding after surgery. Excessive bleeding was defined as chest tube drainage greater than 2 ml·kg^{-1}·h^{-1} in 1 h during the first 4 h after surgery [6]. Results are expressed as means ± SD. Statistical analysis was performed using two-way repeated analysis of variance, Student's *t*-test, or the X^2 test. A P value of less than 0.05 was considered significant.

Results

Table 1 shows the demographics, transfusion requirements, and blood loss of the study patients with excessive bleeding ($n = 12$) and those with acceptable bleeding

Table 1. Patient characteristics

	Acceptable bleeding ($n = 29$)	Excessive bleeding ($n = 12$)
Age (years)	50 ± 16	66 ± 8*
Sex (male/female)	16/13	8/4
Height	163 ± 9	161 ± 6
Weight	60 ± 11	56 ± 8
Operation performed		
Coronery artery bypass surgery	9	3
Aortic valve replacement	5	2
Mitral valve surgery	2	5
Atrial septal defect closure	13	0
Myxoma extraction	0	2
Aortic clamp time (min)	77 ± 38	129 ± 39*
Duration of CPB (min)	136 ± 37	188 ± 48*
MAP administration after CPB	4/29 (14%)	8/12 (67%)*
FFP administration after CPB	5/29 (17%)	8/12 (67%)*
Plt administration after CPB	1/29 (3%)	5/12 (42%)*
Postoperative blood loss during the first 4 h after surgery (ml)	97 ± 59	350 ± 134*

* Value significantly different from acceptable bleeding; $P < 0.05$
Values are means ± SD
CPB, cardiopulmonary bypass

Table 2. Coagulation data before and after CPB

	Acceptable bleeding ($n = 29$)		Excessive bleeding ($n = 12$)	
Variable	After heparin	Before protamine	After heparin	Before protamine
Platelet number ($10^3 \cdot mm^{-3}$)	221 ± 75	149 ± 57*	216 ± 69	90 ± 28*;**
Fibrinogen concentration ($mg \cdot dl^{-1}$)	268 ± 71	160 ± 37*	284 ± 49	154 ± 40*
ACT (s)	255 ± 48	241 ± 52	250 ± 58	246 ± 64
Clot rate ($signal \cdot min^{-1}$)	16.9 ± 7.3	15.7 ± 6.1	17.1 ± 5.2	16.3 ± 4.3
Peak clot signal	94 ± 12	94 ± 8	99 ± 13	93 ± 13
Time to peak (min)	12.1 ± 3.4	13.4 ± 3.7	12.9 ± 3.6	17.3 ± 7.2*;**
Peak angle (degrees)	83 ± 29	85 ± 24	86 ± 22	109 ± 29*;**
Clot retraction rate ($signal \cdot min^{-1}$)	3.0 ± 1.6	3.0 ± 1.4	2.7 ± 1.2	1.5 ± 1.1*;**

* Value before protamine significantly different from after heparin within group; $P < 0.05$;
** Value before protamine significantly different between acceptable and excessive bleeding; $P < 0.05$
Values are means ± SD
ACT, activated clotting time

($n = 29$). There were no significant differences between the two groups in terms of sex distribution, height, or weight. Patients with excessive hemorrhage were older than the nonbleeders. Aortic clamp and CPB times were significantly longer in patients who experienced excessive bleeding.

Coagulation data are shown in Table 2. Before CPB, platelet counts, fibrinogen levels, and Sonoclot values were similar in the groups with and without excessive bleeding. After CPB, platelet counts and fibrinogen concentrations significantly decreased from baseline in both groups, although post-bypass platelet counts were significantly less in bleeders than in nonbleeders (90 ± 28 and 149 ± 57 × $10^3 \cdot mm^{-3}$, respectively). There were no significant differences in Sonoclot values before and after CPB in nonbleeding patients. In the group with excessive bleeding, Sonoclot variables reflecting primary fibrin formation (ACT, clot rate, and peak clot signal) were preserved after CPB; however, the later variables, reflecting platelet-fibrin interaction (time to peak [12.9 ± 3.6 vs 17.3 ± 7.2 min], peak angle [86 ± 22° vs 109 ± 29°], and clot retraction rate [2.7 ± 1.2 vs 1.5 ± 1.1 $signals \cdot min^{-1}$]) were significantly different from their respective pre-bypass values.

The number of hemostatic product transfusions was naturally higher in patients who bled excessively, but none of the study patients required surgical re-exploration of the chest for postoperative hemorrhage.

Discussion

In the present study, we observed that bleeding diathesis was associated with reduced platelet-fibrin

interaction that was evident on the Sonoclot tracings. Of note, initial Sonoclot variables reflecting primary fibrin formation were preserved even in patients who experienced excessive postoperative hemorrhage after CPB. Therefore, obtaining late Sonoclot variables that reliably reflect platelet-fibrin interaction is important for predicting bleeding tendency. The glass-bead activator preferentially activates platelets, and improves the sensitivity of Sonoclot to platelet dysfunction. The addition of heparinase to the glass beads cuvette circumvents the susceptibility of the clot signal to heparin anticoagulation. In our study, we used heparinase to assess coagulation function during rewarming (35.5°C) on CPB, and the total time required for obtaining pertinent Sonoclot variables was in the range of 14 to 27 min, which is reasonable considering the typical laboratory turnaround time of 45–60 min for coagulation assays. If Sonoclot variables are used to obtain pertinent variables reflecting platelet-fibrin interaction (prolonged time to peak, blunt peak angle, and reduced clot retraction rate) prior to protamine administration, they may allow us to determine the risk of bleeding and prepare for allogeneic transfusion if necessary.

A bleeding tendency after CPB reflects multiple coagulation defects, including platelet defects in quantity and/or quality, reduced coagulation factors, inadequate reversal of heparinization, and increased fibrinolysis [7–11]. Nevertheless, a number of investigators have attributed post-CPB bleeding to platelet defects [8–10]. Sonoclot variables have been shown to reflect platelet count as well as platelet function [3,4]. Our finding of decreased platelet-fibrin associated with bleeding is in agreement with such views. Shore-Lesserson et al. [12] reported that the intraoperative guidance of hemostatic transfusion with a Thrombelastograph (TEG; Haemoscope, Niles, IL, USA) could reduce bleeding after surgery. One useful TEG variable is the maximum amplitude, which reflects the interaction of fibrin with platelets [13]. Therefore, reduced platelet-fibrin interaction seems to be a critical indicator of platelet abnormality after CPB.

In our study, platelet concentrates were transfused to maintain the platelet counts at more than $100 \times 10^3 \cdot mm^{-3}$. However, 12 of the 41 study patients met the criteria of excessive bleeding after surgery. Possible factors that affect the efficacy of transfused platelets include the occupation of glycoprotein IIb/IIIa receptors by fibrin degradation products [14], and plasmin-mediated fibrinolysis and platelet activation [15]. The above receptors function as a major fibrinogen binding site, and therefore the platelet-fibrin interaction is reduced by their inhibition [16]. Because we did not implement routine antifibrinolytic therapy (e.g., aminocaproic acid or aprotinin), fibrinolysis might have contributed to the postoperative bleeding diathesis.

Conventional clotting tests such as PT and aPTT only reflect early clot formation, and therefore the kinetics and quality of clot formation are not reflected. Sonoclot coagulation analysis enables bedside determination of clot strength and function in a timely fashion. Several investigators have reported that the Sonoclot Analyzer is useful in predicting postoperative coagulation defects after CPB [17–19]. Tuman et al. [17] reported that Sonoclot analysis can be a reliable predictor of abnormal clinical hemostasis after CPB. Stern et al. [18] assessed platelet function by the Sonoclot parameter of the clot retraction rate in cardiac surgery patients taking nonsteroidal anti-inflammatory drugs. Miyashita and Kuro [19] reported that time to peak for the Sonoclot signature can predict approximate platelet function in cardiac surgery. The use of point-of-care coagulation assays has been consistently associated with reduced blood transfusion and postoperative bleeding after CPB [12,20].

In conclusion, Sonoclot analysis with the glass-bead activated heparinase test indicated the impairment of clot stability after CPB in patients who developed excessive postoperative bleeding. Prolonged CPB was associated with poor hemostasis performance and resultant postoperative hemorrhage. Our retrospective analyses provided us with preliminary data to support the usefulness of Sonoclot in guiding hemostatic therapy, and an additional study is ongoing to evaluate this monitor and antifibrinolytic therapy in a prospective manner.

References

1. Levi M, Cromheecke ME, de Jonge E, Prins MH, de Mol BJ, Briet E, Buller HR (1999) Pharmacological strategies to decrease excessive blood loss in cardiac surgery: a meta-analysis of clinically relevant endpoints. Lancet 354:1940–1947
2. Nuttall GA, Oliver WC, Ereth MH, Santrach PJ (1997) Coagulation tests predict bleeding after cardiopulmonary bypass. J Cardiothorac Vasc Anesth 11:815–823
3. Hett DA, Walker D, Pilkington SN, Smith DC (1995) Sonoclot analysis. Br J Anaesth 75:771–776
4. LaForce WR, Brudno DS, Kanto WP, Karp WB (1992) Evaluation of the SonoClot Analyzer for the measurement of platelet function in whole blood. Ann Clin Lab Sci 22:30–33
5. Ekback G, Carlsson O, Schott U (1999) Sonoclot coagulation analysis: a study of test variability. J Cardiothorac Vasc Anesth 13:393–397
6. Ammar T, Silvay G (1998) Factors that influence early extubation: bleeding. J Cardiothorac Vasc Anesth 12:28–29
7. Bick RL (1985) Hemostasis defects associated with cardiac surgery, prosthetic devices, and other extracorporeal circuits. Semin Thromb Hemost 11:249–280
8. Ray MJ, Hawson GA, Just SJ, McLachlan G, O'Brien M (1994) Relationship of platelet aggregation to bleeding after cardiopulmonary bypass. Ann Thorac Surg 57:981–986
9. Ray MJ, Marsh NA, Hawson GA (1994) Relationship of fibrinolysis and platelet function to bleeding after cardiopulmonary bypass. Blood Coagul Fibrinolysis 5:679–685
10. Harker LA, Malpass TW, Branson HE, Hessel EA 2nd, Slichter SJ (1980) Mechanism of abnormal bleeding in patients undergo-

ing cardiopulmonary bypass: acquired transient platelet dysfunction associated with selective alpha-granule release. Blood 56: 824–834
11. Ray MJ, Marsh NA, Hawson GA (1994) Relationship of fibrinolysis and platelet function to bleeding after cardiopulmonary bypass. Blood Coagul Fibrinolysis 5:679–685
12. Shore-Lesserson L, Manspeizer HE, DePerio M, Francis S, Vela-Cantos F, Ergin MA (1999) Thrombelastography-guided transfusion algorithm reduces transfusions in complex cardiac surgery. Anesth Analg 88:312–319
13. Kawasaki J, Katori N, Kodaka M, Miyao H, Tanaka KA (2004) Electron microscopic evaluations of clot morphology during thrombelastography. Anesth Analg 99:1440–1444
14. Thorsen LI, Brosstad F, Gogstad G, Sletten K, Solum NO (1986) Competitions between fibrinogen with its degradation products for interactions with the platelet-fibrinogen receptor. Thromb Res 44:611–623
15. Shigeta O, Kojima H, Jikuya T, Terada Y, Atsumi N, Sakakibara Y, Nagasawa T, Mitsui T (1997) Aprotinin inhibits plasmin-induced platelet activation during cardiopulmonary bypass. Circulation 96:569–574
16. Katori N, Szlam F, Levy JH, Tanaka KA (2004) A novel method to assess platelet inhibition by eptifibatide with thrombelastograph. Anesth Analg 99:1794–1799
17. Tuman KJ, Spiess BD, McCarthy RJ, Ivankovich AD (1989) Comparison of viscoelastic measures of coagulation after cardiopulmonary bypass. Anesth Analg 69:69–75
18. Stern MP, DeVos-Doyle K, Viguera MG, Lajos TZ (1989) Evaluation of post-cardiopulmonary bypass Sonoclot signatures in patients taking nonsteroidal anti-inflammatory drugs. J Cardiothorac Anesth 3:730–733
19. Miyashita T, Kuro M (1998) Evaluation of platelet function by Sonoclot analysis compared with other hemostatic variables in cardiac surgery. Anesth Analg 87:1228–1233
20. Avidan MS, Alcock EL, Da Fonseca J, Ponte J, Desai JB, Despotis GJ, Hunt BL (2004) Comparison of structured use of routine laboratory tests or near-patient assessment with clinical judgement in the management of bleeding after cardiac surgery. Br J Anaesth 92:178–186

SHOCK, Vol. 28, No. 1, pp. 101–105, 2007

INHIBITION OF NEUTROPHIL ELASTASE ATTENUATES GUT MUCOSAL INJURY EVOKED BY ACUTE ALVEOLAR HYPOXIA IN RABBITS

Norihito Nakamura,* Hiroshi Morisaki,* Takeshi Suzuki,* Satoshi Yajima,* Nobuyuki Katori,* Yoshifumi Kotake,* Yosuke Funakoshi,† Kazuhito Kawabata,† Shingo Yamada,‡ Akitoshi Ishizaka,§ and Junzo Takeda*

**Department of Anesthesiology, Keio University School of Medicine, Tokyo; †Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Osaka; ‡Central Institute, Shino-Test Corporation, Kanagawa; and §Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan*

Received 29 Jul 2006; first review completed 5 Oct 2006; accepted in final form 6 Nov 2006

ABSTRACT—The aim of the present study was to examine whether neutrophil and its elastase activity played consequential roles in the progression of gut barrier dysfunction during acute alveolar hypoxia by using a specific neutrophil elastase inhibitor, sivelestat. With our institutional approval, 20 male rabbits (weight, 2.0–2.5 kg) were randomly allocated into two groups: control (n = 11) or sivelestat group (n = 9; bolus, 10 mg/kg, followed by 10 mg/kg per hour). At 4 h of alveolar hypoxia exposure (fraction of inspired oxygen, 0.10) under mechanical ventilation, the white blood cell counts and their function to produce oxygen radicals were measured. Intestinal permeability and myeloperoxidase activity were also assessed concurrently with the examination of histological changes of gut mucosa. The examination of sham animals (n = 4) exposed to normoxia was performed under the same study protocol. The circulating leukocyte counts and the neutrophil chemiluminescence were not different between the groups, whereas the neutrophil elastase activity was significantly increased in the control but not in the sivelestat and sham groups. Permeability, leukocyte accumulation, and myeloperoxidase activity of ileal wall in the control group were significantly elevated, accompanied by apparent destruction of gut mucosa compared with the sivelestat group ($P < 0.05$). Despite no significant differences in systemic inflammatory responses, the neutrophil elastase activity is a key element in the progression of functional and structural injury of gut mucosa during acute alveolar hypoxia.

KEYWORDS—Bacterial translocation, leukocyte, permeability, sivelestat, high-mobility group box 1

INTRODUCTION

Critically ill patients, who are at high risk of developing serious conditions such as septic shock or myocardial infarction, are frequently susceptible to acute hypoxic episodes because of their complicating lung injury or other conditions (1–3). Although alveolar hypoxia modulates almost all organ function, previous studies have mainly focused on the lungs. For example, decreased alveolar oxygenation induced lung inflammation (i.e., the recruitment of macrophage, the enhancement of inflammatory mediators, and the increase of albumin leakage in lungs) (4). Another study demonstrated that alveolar hypoxia increased leukocyte adhesion in the microcirculation through the involvement of adhesion molecules, resulting in vascular leak syndrome (5, 6). As a promising approach, the inhibition of neutrophil elastase with a specific neutrophil elastase inhibitor, sivelestat, (ONO-5046; *N*-[2-{4-(2,2-dimethylpropionyloxy) phenylsulphonyl-amino} benzoyl] amino acetic acid; Ono pharmaceuticals, Osaka, Japan) has been shown to provide therapeutic effects on such lung injury in laboratory investigations (7, 8). However, the roles of this mediator in the pathophysiology of extrapulmonary organs have not been fully investigated, particularly under noninflammatory insults such as acute hypoxia.

Gut, the most fragile organ to hypoxia because of its anatomical characteristics (9), has become a therapeutic target in critically ill patients (10). Thus, a loss of gut barrier function causes the translocation of microorganisms and/or toxins and, subsequently, the development of multiple organ failure (10). Indeed, we previously demonstrated that acute hypoxia deteriorated the gut mucosal barrier function and structure, resulting in the translocation of endotoxin (11, 12). However, substantial mechanisms of hypoxia-induced gut mucosal injury remain to be fully clarified. We therefore designed the present study to examine, by using sivelestat, whether the inhibition of neutrophil elastase activity minimized the elevation of gut mucosal permeability and structural alterations through the neutrophil-dependent mechanisms during acute hypoxia. Simultaneously, we examined the contribution of plasma high-mobility group box 1 (HMGB1), originally identified as a DNA-binding protein and a consequential mediator of lung injury (13), to the development of gut barrier dysfunction due to moderate level of hypoxia.

MATERIALS AND METHODS

This protocol was approved by the Keio University Council on Animal Care in accordance with the guidelines of the National Institutes of Health.

Preparation surgery

Twenty healthy rabbits (Japanese white rabbits [male]; SEASCO, Saitama, Japan), weighing 2.0 to 2.6 kg (average, 2.3 kg) and fasted for 24 h, were used. With sevoflurane 3% to 4% inhalation in oxygen (flow rate, 3–4 L/min) *via* facemask, the rabbits underwent tracheostomy and i.v. line access on the marginal ear vein. The animals were then mechanically ventilated to maintain normocapnia (fraction of inspired oxygen [F_{IO_2}], 0.21; inspiratory pressure, 12–15 cm H_2O; breath rate, 10–15 breaths/min) using an intensive care unit–type ventilator (Newport E100; Newport Medical Instruments, Costa Mesa, Calif). The right carotid artery was cannulated to monitor the mean arterial pressure (MAP) and to obtain blood samples. After a

Address reprint requests to Dr. Hiroshi Morisaki, Department of Anesthesiology, Keio University School of Medicine, 35 Shinanomachi, Shinjuku, Tokyo 160–8582, Japan. E-mail: morisaki@z8.keio.jp.

This study was supported by grant-in-aids for scientific research from the Ministry of Health, Labor, and Welfare, Tokyo Japan (grant no. 15790832).

Presented, in part, at the annual meeting of the American Society of Anesthesiologists, October 23, 2005, Atlanta, Georgia.

DOI: 10.1097/shk.0b013e31802fa1b2

midline abdominal incision, a perivascular probe (Transit Time Ultrasound flowmeter, model T206; Transonic Systems, Inc., Ithaca, NY) was attached around the descending aorta for the measurement of abdominal aortic flow. After the closure of laparotomy incision, the administration of inhalational anesthesia was discontinued; then, a continuous 1-mL/h infusion of sedatives consisting of buprenorphine (dose, 0.1 mg/mL), midazolam (dose, 2 mg/mL), and pancuronium (dose, 0.05 mg/mL) was performed throughout the study period to suppress the vigorous, spontaneous inspiratory efforts during hypoxia described in the study protocol. Rectal temperature was monitored and maintained at approximately 37°C. The animals were observed for 1 h before baseline measurements were made.

Study protocol

After 45-min equilibration period, the baseline measurements described in the Specific Measurements section were performed (baseline). Thereafter, 20 rabbits were randomly assigned to two groups by means of computer-generated random numbers; then, all animals were exposed to acute hypoxia (F_{IO_2}, 0.10) for 4 h. After the baseline study, 11 rabbits (control group) received isotonic sodium chloride infusion, whereas nine rabbits received i.v. injection of sivelestat (sivelestat group; dose, 10 mg/kg), followed by continuous infusion at a rate of 10 mg/kg per hour throughout the study period. By mixing air with 100% nitrogen through the oxygen blender of the ventilator, the F_{IO_2} was reduced to hypoxia (F_{IO_2}, 0.10), under monitoring using an anesthetic gas analyzer (Ohmeda 5250RGM; BOC Health Care, Louisville, Colo). Our pilot study demonstrated that the moderate level of acute hypoxia (F_{IO_2}, 0.10) for 4 h caused a moderate level of gut mucosal alterations (i.e., significant elevation of mucosal permeability and apparent structural changes of gut mucosa). Therefore, in the current study, we applied this condition to examine the roles of neutrophil and HMGB1 in the development of gut mucosal injury. The measurements were then repeated after 2 and 4 h. After the experiments were executed, the rabbits were killed by means of i.v. pentobarbital overdose. In addition, to determine the time course effects in our experimental setting, we studied four sham animals that received the same catheterization without acute hypoxia under the same study protocol.

Specific measurements

Arterial pH, $Paco_2$, Pao_2, and lactate concentration were determined by using a blood gas analyzer (Chiron 860 series; Chiron Diagnosis Corporation, East Walpole, Mass). The white blood cell counts in whole blood were determined (Celltac MEK-5153; Nihon Kohden Corporation). Simultaneously, blood sample was stained with Giemsa stain to determine the changes on peripheral neutrophils count.

Neutrophil priming was assayed by means of the release of reactive oxygen species from *in vitro* stimulated neutrophils with luminol-dependent neutrophil chemiluminescence (luminescence reader BLR-201, Aloka, Tokyo, Japan) (14). The reaction mixture consisted of 1.7 mL of diluted whole blood and 0.2 mL of a 1-mmol/L luminol solution. After preincubation at 37°C, 5 mg/mL opsonized zymosan (dose, 0.1 mL) was added to the mixture; then, the peak chemiluminescence value during the 20-min assay time was used as a neutrophil-priming indicator. The neutrophil elastase activity in plasma was determined using the synthetic substrate *N*-methoxysuccinyl-Ala-Ala-Pro-Val *p*-nitroaniline, which is highly specific for neutrophil elastase by using the method described previously (15). Briefly, the samples were incubated in 0.1 mol/L Tris-HCl buffer (pH value, 8.0) containing 0.5 mol/L NaCl and 1 mmol/L substrate for 24 h at 37°C. After incubation, the *p*-nitroaniline release was measured spectrophotometrically at 405 nm and was considered as neutrophil elastase activity.

Plasma HMGB1 concentration was measured with a new, highly sensitive, and specific enzyme-linked immunosorbent assay (Shino-Test Corporation, Tokyo, Japan), which could be applied to rabbits and other species (16). Briefly, polystyrene microtiter plates were coated with monoclonal anticalf HMGB1 antibody. The remaining binding sites in the wells were blocked by bovine serum albumin. After washing, the calibrator and the samples were added to the wells. After another washing, antihuman HMGB1 peroxidase–conjugated monoclonal antibody (a synthetic peptide was used as immunogen) was added to each well. After another washing step, the luminescence reagent was added to each well. The luminescence was measured using a microplate luminescence reader. Measurements of all parameters were performed in duplicate, and mean values were used for analysis.

Mucosal permeability and myeloperoxidase activity in ileal wall

Using fluorescein isothiocyanate–conjugated Dextran with a molecular weight of 4,000 d (FD4), we determined the alterations of gut permeability as previously described (17). At 4 h, the abdomen was opened for the preparation of an *in situ* loop of gut. Briefly, double ligatures at both ends were made on the 10-cm length of terminal ileum. Through a cannula placed into this segment of terminal ileum, FD4 (weight, 50 mg) was injected. After 30 min, blood samples from both the portal vein and the carotid artery were taken and centrifuged; subsequently, plasma FD4 concentrations were measured using fluorescence spectrometry (spectrofluorophotometer model RF-1500; Shimadzu Corporation, Kyoto, Japan). The results were corrected for the plasma protein contents measured by using the Lowry method.

As an index of leukocyte sequestration, the myeloperoxidase (MPO) activity of ileal wall was assayed, as reported previously, with minor modification (18). Briefly, a small portion of the terminal ileum was frozen in liquid nitrogen and stored at a temperature of −80°C for subsequent assay. The samples were disrupted by homogenization at a temperature of 4°C and were placed into 0.5% hexyldecyltrimethyl ammonium bromide in 50 mmol/L potassium phosphate solution (pH value, 6.0; 1 mL per 100 mg ileum). The tissue was sonicated on ice and underwent three freeze/thaw cycles (liquid nitrogen bath and 37°C water bath). The solution was centrifuged at 18,000*g* for 20 min at 4°C. Aliquots (volume, 0.04 mL) of supernatant were added to 0.96 mL of assay buffer (concentration, 0.17 mg/mL) and measured after 5 min of incubation by means of spectrophotometry at 492 nm (spectrofluorophotometer model RF-1500; Shimadzu Corporation). The MPO activity was expressed in units per milligram of protein.

Histological analyses

At the completion of experiments, the microstructure of terminal ileum was examined. Ileal samples were fixed for microscopic examination by using luminal perfusion and were processed as described by Deitch et al. (19). After processing, semithin (thickness, 2–4 μm) sections were cut by means of a diamond knife and were stained with hematoxylin and eosin. Histological sections were randomly coded and evaluated in a blinded manner at ×100 magnification using light microscopy. With a modification of the grading system of Chiu et al. (20), the degree of mucosal damage was graded in a blinded fashion by an independent observer on a scale of 0 (normal) to 4 (severe cell disruption). Twenty-five random fields from each tissue were examined in a blinded fashion by an independent observer under light microscopy.

Statistical analysis

Data are expressed as mean ± SD unless otherwise specified. One-way analysis of variance was applied to examine the differences, and the means of all groups were compared using Student-Newman-Keuls test for multiple comparisons. The histological scoring data were analyzed by using chi-square test. Differences were considered statistically significant if $P < 0.05$.

RESULTS

Table 1 shows the changes on systemic circulatory and oxygenation variables during acute hypoxia. As a matter of course, the Pao_2 and the arterial O_2 content were significantly depressed at 2- and 4-h study periods to a similar extent in

TABLE 1. **Changes on systemic circulatory and oxygenation variables during acute hypoxia**

	Group	Baseline	2 h	4 h
Pao_2 (mmHg)	Control	71 ± 10	28 ± 3**	31 ± 3**
	Sivelestat	70 ± 10	34 ± 5**	30 ± 4**
Arterial O_2 content (mL O_2/L)	Control	14.8 ± 1.6	7.8 ± 0.8**	7.4 ± 1.2**
	Sivelestat	14.7 ± 1.1	8.7 ± 1.3**	7.4 ± 1.2**
Arterial pH	Control	7.39 ± 0.06	7.26 ± 0.08	7.18 ± 0.09*
	Sivelestat	7.37 ± 0.06	7.29 ± 0.13	7.21 ± 0.14
Arterial lactate (mmol/L)	Control	3.0 ± 0.8	10.8 ± 4.0**	13.1 ± 3.5**
	Sivelestat	2.6 ± 0.9	10.1 ± 5.1**	13.8 ± 5.7**
MAP	Control	74 ± 6	79 ± 15	68 ± 14
	Sivelestat	86 ± 6	78 ± 9	77 ± 15
Heart rate (beats/min)	Control	267 ± 27	249 ± 19	235 ± 54
	Sivelestat	257 ± 46	247 ± 19	250 ± 42
Abdominal aortic flow (mL/min)	Control	281 ± 65	243 ± 49	252 ± 32
	Sivelestat	259 ± 16	250 ± 44	220 ± 35

All values are expressed as mean ± SD.
*$P < 0.05$;
**$P < 0.01$ *versus* baseline.

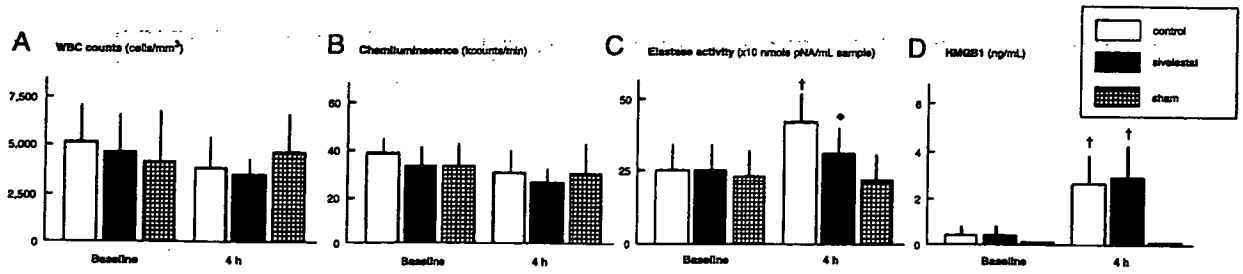


FIG. 1. **Changes on circulating leukocyte counts, chemiluminescence, neutrophil elastase activity, and HMGB1 activity during acute hypoxia.** Data are expressed as mean ± SD. $^{*}P < 0.05$ *versus* control group; $^{\dagger}P < 0.05$ *versus* baseline of each group.

both study groups. Arterial pH was also depressed at 4 h, whereas arterial lactate showed a marked elevation at 2- and 4-h study periods. On the contrary, systemic hemodynamics, such as MAP and heart rate, were not significantly different between both study groups throughout the study periods, whereas these parameters showed a slight reduction at 4 h *versus* the baseline. Simultaneously, the abdominal aortic blood flow, possibly reflecting cardiac output, remained constant during acute hypoxia.

Figure 1 illustrates the changes on circulating white blood cell counts, chemiluminescence, neutrophil elastase activity, and HMGB1 activity at baseline and at 4 h of acute hypoxia. The number of circulating leukocytes and their chemiluminescence were not changed significantly at baseline and at 4 h of acute hypoxia in all study groups. The number of neutrophils showed results similar to those of leukocytes (data not shown). The plasma neutrophil elastase activity in the control group increased significantly at 4 h compared with the baseline period and the sivelestat group, whereas the plasma neutrophil elastase activity in both the sivelestat and the sham groups remained constant throughout the study periods. The plasma HMGB1 activity, which was undetectable in most animals at baseline, showed a marked elevation at 4 h of acute hypoxia in both study groups *versus* the sham. Figure 2 shows the changes on plasma FD4 concentration and ileal MPO activity. The plasma FD4 concentration, indicating mucosal permeability, was markedly increased in the control group compared with that of the sivelestat group. Simultaneously, the ileal MPO activity level in the control group was significantly higher compared with that in the sivelestat groups ($P < 0.05$), indicating that the number of accumulated leukocytes in the ileal wall during hypoxia was significantly reduced with sivelestat infusion.

Figure 3 illustrates, using light microscopy, the representative pictures of the villi of distal ileum in the control and the sivelestat groups. The villi of the animals subjected to hypoxia in the control group showed definitive evidence of mucosal injury, such as disruption of microvilli, lifting of the epithelium from the basal lamina with submucosal edema, and accumulation of leukocytes (A), whereas those in sivelestat group showed near-normal picture (B). Apparently, the leukocyte accumulation in the ileal mucosa was augmented in the control *versus* the sivelestat group. Simultaneously, the data of injury scores using Chui's modified scoring system demonstrated that the mucosal injury of distal ileum observed in the control group was significantly attenuated in the sivelestat group (Fig. 4) ($P < 0.01$). Thus, sivelestat infusion in this experimental model minimized the acute hypoxia-induced alterations of both structure and barrier function against macromolecules in ileal mucosa.

DISCUSSION

The present study demonstrates that the exposure of moderate hypoxia (FIO_2, 0.1) for short-term period induces both functional and structural alterations of gut, accompanied by a marked accumulation of leukocytes in the mucosa. This study also showed that the inhibition of neutrophil elastase activity with a specific elastase inhibitor ameliorated such gut mucosal dysfunction evoked by acute hypoxia. Inasmuch as the changes of hemodynamics and neutrophil-related parameters detected at systemic level were paralleled in both

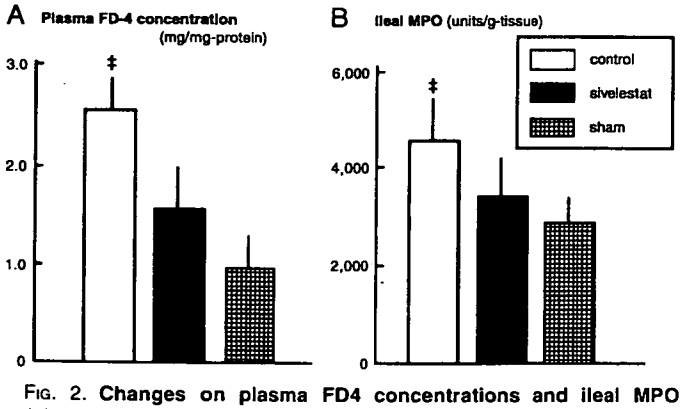


FIG. 2. **Changes on plasma FD4 concentrations and ileal MPO activity.** Data are expressed as mean ± SD. $^{*}P < 0.05$ *versus* sivelestat group.

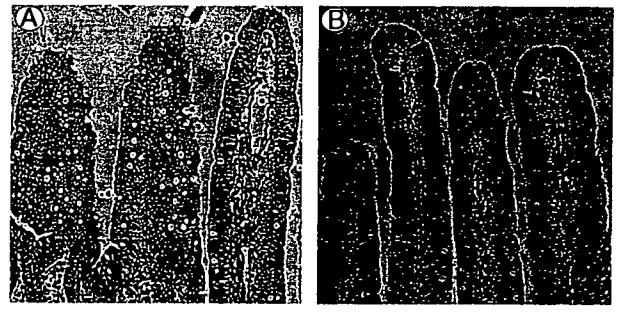


FIG. 3. **Representative pictures showing the villi of distal ileum of rabbits, as captured by means of light microscopy (original magnification, ×100).** A, Representative villi of distal ileum from a rabbit in control group. Note the degenerated epithelial cells of villi and apparent leukocyte accumulation in ileal mucosa. B, Representative villi of distal ileum from a rabbit in sivelestat group. Note the normal-looking structure of ileal mucosa.